

実行力

1. 教育を考える一言

なせば成る、為せねば成らぬ何事も成さぬは人の為さぬなりけり

2. 背景

この言葉は私の出身地である山形県、米沢藩の上杉鷹山の言葉です。この言葉は彼が財政難で危機的状況であった米沢藩を立て直したときに言った一言だと言われています。私がこの言葉と出会いのきっかけは中学時部活動の顧問であり、クラスの担任であった恩師の一言です。私は以来この言葉を困難な時などに思いだし乗り越えてきました。この言葉の意味は「やればできる、やらなければできない。何事も、できないのは人がやらないからだ。」という意味です。私はこの真意を本当の意味で理解できているか定かではないです。しかし少なくともこの言葉が何を言っているかは理解できているつもりです。

3. 考察

中学校の教育実習などに行った際、よく耳にしたのが「わたしなんか…」や「どうせ無理だ」という言葉でした。中学生という時期は多感であり精神面においても不安定な時期でもあります。また部活動や高校受験など様々なコミュニティの中に身を置いています。その中で生徒たちは自分と他人を比べ、劣っていると感じると何事にも消極的になり、行動することを諦めてしまうときもあります。そのような生徒に私はこの鷹山の言葉を聞いてほしいと思っています。何事も行動しなければ結果はついてこない、たとえそれが失敗しようとも、次にまたそれを生かして行動すべきです。

過去を振り返ってみると、歴史上の人物はこのことを命かけてこのことを実行し名前を残しているのです。またそのことを学んでいる私たちは彼らから学ばなければならず、そして生かしていかなければなりません。私たちはそのために勉学を行うのです。このことは教育の場で教えなければならないと感じています。

結果に怯え行動しない、考えるばかりで行動しない、たくさんの人たちがこのような状況では社会は発展せず、世界における日本の発言力も次第に弱まってしまいます。そのことにより不利益を被るのは私たちです。そのような状況になる前に私たちは今の子供たちに行動することの重要性を教え、実行力を備えさせなければなりません。

引用参考文献

佃 律志 『生涯改革者—上杉鷹山の教え』日本経済新聞出版社、2012年